



博物館だより

No. 213 2013. 1

ミニミニマインズ



明けましておめでとうございます

本年もどうぞよろしく願い申し上げます



博物館実習が終了しました

鉱業博物館では、今年度29人の博物館実習生を受け入れ、半年間に渡って実習を行ってきました。学芸員資格の取得を目指して、例年標本の整理や管理、企画展・イベント関連の実務、来館者への館内案内実習などを行っています。

今年度はさらに宝石展示コーナーのリニューアル、オリジナルグッズの企画、標本ラベルやキャプションの作成、博物館だより「ミニミニマインズ」の編集など、より現場に密着した課題に取り組んできました。

自分たちのアイデアを生かした企画や、工夫を重ねた展示に対する来館者の反応に手ごたえを感じたことで、博物館の役割や学芸員の業務への理解が深まり、実りのある実習となったことでしょう。裏方を経験したことで、単なる見学者としての意見ではなく、より展示する側に立った様々な意見は、当館にとっても大変貴重なものとなりました。

頼もしい戦力として活動した実習生の様子を紹介します。

実習生まとめより

(一部抜粋)

博物館や学芸員の仕事は資料の収集、研究などの専門技術、資料を魅せるための柔軟な発想力、資料の持つ価値を伝えるための対人力など様々な能力が必要とされる仕事なのだと感じさせられた。(T.Sさん)

裏方の仕事がきちんと出来ていないと、来館者にいいものは見せられないので、目に見えない仕事こそしっかりがんばらなければならないのだとわかった。(M.Oさん)

学芸員と聞くとおとなしいイメージを勝手に思っていたが、実際は体を使って子どもや利用者、他の職員達とたくさんコミュニケーションをとって...というアクティブなものだった。約半年間でかつ限られた時間の中での実習であったので私が経験した業務はほんの一部分に過ぎないのだと思うと、その大変さと苦勞を感じ取ることができ、またやりがいも大きなものがあるのだなと思った。(I.Sさん)

たった一つのコーナーを考えるのにもたくさんの時間をかけ、何度もやり直したりしてようやく完成させるという作業は博物館でなければできないと思う。職員の人たちはそういう部分にこだわりを持って仕事をしているのだと強く感じた。(M.Oさん)



仕事の種類の多さ豊富さに驚いた

高級感のある敷布で宝石を引き立てるように

大工仕事も。木材をカットして、展示台の高さ調整用に使用

宝石展示の台座・ラベルのデザインや、敷布の選定・発注など業者との交渉も行った



オリジナルグッズの企画は様々なアイデアが出たが、難航し現在も進行中。完成をお楽しみに！

ここでしか手に入らないような魅力的なグッズをたくさん売ることができれば、博物館にもっと多くの人が足を運んでくれるのではないかと感じた

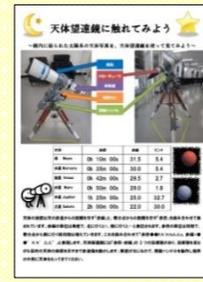


秋田古銭の特別展示では今井先生の指導のもと、企画、展示資料の借出し、解説文の作成や展示まですべて手がけた

来館者の方に合わせて臨機応変に対応するには、もっと知識を身につけて経験を積まなければいけないと思った



見学者への展示案内。それぞれ1コーナーを担当した



知識のない人にもわかりやすい内容で、デザインも何度も何度も考え作り直して納得したもののができた

標本ラベルやキャプションの作成をはじめとして各階の資料解説や手引書の作成にもチャレンジ

しっかりと知識を身につけ、子どもたちに還元できるようにしたい



鉱物標本作製に取り組む子どもたちにアドバイス

実地体験ならではの経験が、子どもたちの好奇心や知識を増大させることがわかった



鉱物採取をしたジュニアサイエンススクール。ポスターやしおり、標本箱の作製から、当日の現地サポートまで取り組んだ

平成25年度 サイエンスボランティアを募集いたします

平成25年4月1日から平成26年3月31日までの1年間、鉱業博物館の様々な仕事をサポートして下さるサイエンスボランティアを募集いたします。

今年度は32名の方が登録して下さり、小中高生や一般の団体、個人の方の展示案内やサポートをはじめとして、展示標本の修理や環境美化など多方面で活躍して下さいました。事前に活動をサポートする学習会を開催しますので、初めての方もお気軽にご参加ください。現在登録している方も毎年度の更新が必要ですので改めてお申し込みください。よろしくお願いいたします。

◆活動内容：見学者への案内と説明
見学者へのサポート
館内環境整備等のサポート

◆活動期間：1年間

◆募集対象：高校生以上の方であれば
どなたでもご参加できます

◆募集期間：平成25年1月25日(金)～3月29日(金)
(土日祝日を除く9時～16時)

◆申込み先：鉱業博物館事務室までご連絡ください。

TEL 018-889-2461

E-mail w3admin@mus.akita-u.ac.jp



高校生に展示案内をして下さるサイエンスボランティアの方

ご参加をお待ちしています

? これはいったい何?



《産地》アメリカ合衆国

不思議な物体が当館標本に仲間入りしました。筒状のこれはいったい生き物？石？それとも・・・？

現在新着標本として中央ホールに展示しています。写真では伝えきれないおもしろさがありますので、ぜひじっくりと実物をご覧ください。



↑上から見ると・・・

答えがわかった方はご来館ください。正解者にはミニプレゼントがありますよ。右のヒントをもとにチャレンジしてみましょう！

謎を解いてみましょう

①～⑥の答えの6個の○の文字を順番に並べると、この物体の名前が現れます。

答え: ○○○○○○



①花の名前が付いた不思議な形の石ころ ○○○○○○

②かんかん石とも呼ばれ、たたくと金属のような高く澄んだ音がする ○○○○

③地層中に埋もれた樹木が化石化した ○○○○。秋田では由利に多く産する

④調味料として使われる○○○○

⑤○○○○○○の透明な結晶を通すとものが二重に見える

⑥宇宙からのメッセージ？当館では国内最大の気仙○○○○を展示



標本の紹介

しびかわそう

鮭川層の含貝化石砂礫層

今回は男鹿市脇本にある鮭川層(しびかわそう)のはぎ取り標本を紹介します。

男鹿半島は「地層の博物館」とも呼ばれる地質学において非常に重要な場所ですが、そこで見られる地層の一つが鮭川層です。この地層は約10～50万年前の氷河時代に海底に堆積して形成されたと言われています。主に砂層からなり、浅い海に生息した貝の化石が多く見られます。

はぎ取り標本は、地層に特殊な糊を貼付して地層の表面をそのままはぎ取って作ります。職員や実習生が現地に赴き作成したもので、当館2階展示室の目玉の一つとなっています。



手で触れて細部を観察する中学生



ホタテガイやエソタマガイなどの貝化石が密集している



はぎ取り標本のコーナー。中央の能代市逆川断層の標本は縦120cm・横230cmの大スケール



臨場感あふれる標本。砂層と貝殻層が交互に堆積している様子が観察できる